

リレー連載 生ヒストリー温故知新
第6回 白井 透さん (60期)

1. 第16代会長 (2008.6 ~ 2011.6)

2. 一番印象に残っている出来事

主催でアニメ「サマーウォーズ」(細田守監督)上映会開催。文化庁メディア芸術祭賞アニメ部門大賞に輝き、上田の風景がふんだんに登場し、ストーリーは甲子園出場を目指す上田高校がらみで、当会での上映にうってつけであった。300人に及ぶ同窓生らの参加があり、鑑賞した方々より満足の言葉をいただいたことが、非常にうれしく深く印象に残った。上映後、上田染谷OG夫人同伴の細田監督のトークショーで一層盛り上がった。

3. 一番苦労したこと

会の財政を安定させるため、方策として、①会員からの会費収入増、②総会や新年会の参加者増による収入増、③会報への宣伝広告費獲得、寄付金がある。そのため、「楽しいイベント開催での魅力づけ」「魅力ある会報の発行」「適切な情報発信」などに心がけた。

- ・60期代を中心に会費の納入増を図れた。
- ・イベントの開催では、同窓生の豊富な人材に恵まれた。
- ・魅力ある開催としては、前述の上映会や、母校から各種班を招聘できた。
- ・宣伝広告費獲得や会報についてはそれぞれ担当を決め努力した。
- ・メール網を増強して情報発信に努めた。

いずれにしても、熱意にとんだ役員全員の不断の努力で、苦労しながらも収支のバランスを取りながら任期を過ごしたと思っている。

4. 同窓会への想いなど

私たちは、自然環境や社会環境など自身を取り巻く要因から多くの影響を受けて成長して現在に至っている。意識するとしないにかかわらず、周りの環境に色濃く影響され続けている。自我に目覚めつつある高校時代は周囲の環境から強い影響を受ける時期でしょう。そのような多感な時期に学び舎を共にした高校同窓生との縁は濃くすればするほど、意義深く有益な影響を与えてくれる。というのは、かつて同窓会に関心もなくさして魅力を感じていなかった自分が活動にかかわってから始まった多くの同窓生の皆様とのご縁によりたくさんの有意義な果実を享受できている経験があるから。益々多くの会員の方が関東同窓会に関心を持って、参加、参画されることを願っている。

添付資料

■ 次ページ

「サマーウォーズ」上映会結果と細田監督のトークショー 会報80号 P4より

「サマーウォーズ」上映会に300人参加

細田守監督が特別出演

トークショー実現

映画「サマーウォーズ」上映会が4月10日、千代田区一ツ橋の日本教育会館で開催された。会場の玄関には寺島千恵子さん(58期)が筆を執った「細田守監督来たる！サマーウォーズ上映会」の立て看板。関東同窓会、東京上田会などの会員と家族ら300人が参加した。

昨年夏に一般公開された「サマーウォーズ」は、国内で大ヒットしただけでなく、海外でも好評を博し、文化庁メディア芸術祭賞のアニメ部門大賞など各種のアニメ賞を総なめ。上田市からも昨年11月に特別賞を受賞した。

映画には、別所線の丸窓電車、上田城の東虎口櫓門にそっくりな「陣内家」の門など、故郷の風景がふんだんに登場。来年、上田高校が3度目の甲子園出場を果たすという、うれしいシナリオも取り入れられている。

上映後、細田監督が舞台上がりトークショーを開催。「これだけ上田を連呼した映画は史上初」と語り、上田を舞台に選んだ経緯など、制作の裏話を披露した。



(C) 2009 SUMMERWARS FILM PARTNERS



細田監督との

1問1答(要旨)

司会は上原昇副会長

—上田を映画の舞台に選んだきっかけは。

「上田で撮影された歴代の映画の中でも、これだけ『上田』を連呼した映画は史上初だと思う。4年前『時をかける少女』を作って、次に何をやるかと考えたとき、海外の映画祭などに招かれて感じたのは、初めから世界の市場を狙うより、身近なモチーフを選んだ方が多くの人に見てもらえるのではないかと。で、妻の実家のことを映画にしてみようと思いついた。それが上田を舞台に選んだ理由だ」

—上田の印象は。

「初めて行ったのは、妻の両親にあいさつするため。空が青く、湿度も低くて気持ちよかったです。でも両親に会う緊張で、周囲の風景を楽しむ余裕はなかった。映画に出てくる陣内家は真田家がモデル。実は上田のことはあまり知らなかったが、妻を通して情報が入ってきた。一番印象に残ったのは、真田軍がかつて徳川軍を2度も打ち負かしたという話。圧倒的な勢力差にもかかわらず負けなかった。そのことを上田の人は今でも誇りにしていると聞いて、うらやましいと思った。そういう歴史を持つ人たちが今活躍するとし



たら、どういうことになるのか。そう思っこの映画を制作した」

—映画の中には、上田高校が甲子園出場を果たすという場面も。これを取り上げた経緯は。

「今年は上田高校が躍進するだろうという、映画に込められた予言。なぜ上田高校なのか。実は僕の妻は上田染谷丘高校の出身。昔は女子校で、今は共学。最初に考えたのは、染谷丘高校野球部が甲子園に行くという話。元女子校が共学になって甲子園出場を果たすという面白さも含めて、設計図を描き始めた。ところが長野県には佐久長聖、松商学園など強豪校が多いことを知った。その中で、元女子校が甲子園に行けるのか、ちよつとリアリティーに欠けると思い始めた。調べたら、上田高校は過去に2度も甲子園に出場している。公立校なのにすごいと思っ

て、急ぎよ上田高校に変更した」

場する。これを使った理由は。

「劇中では、陣内家の大広間に掲げられた書の1つとして使わせてもらった。きっかけはロケハンで上田高校に行った時。校内に大きな石碑があり、そこに刻まれていたのが『いざ百難に試みむ』という一節。困難なことにあえて挑戦するという姿勢にハッとさせられ、真田家の精神性が現代に語り継がれているように感じた。真田家には、武田氏の『風林火山』のような名文句が残されていない。『試百難』は歴史的な言葉だと思っただが、調べてみると、漢文の先生が作ったとか。でも、昔から上田にあるスピリットが、今の言葉で言うところこういう風になると思い、引用させてもらった」

—「サマーウォーズ」は海外でも大きな話題を呼んだ。自分の作品に対する評価は。

「2月にベルリン映画祭に行っただけ、パリ、ニューヨーク、ボストンなども訪問した。昨年はシソールや韓国でも上映した。どこでも気に入ってもらい、うれしかった。日本の一地方都市を舞台にした映画にもかかわらず、世界中の人たちが遠い国の遠い街の話とは思わず、自分のことのように感じてくれた。今の世に大事なものが上田にあつて、それをたまた私が映画化したわけだが、上田に流れているものが、世界でも身近なものとして受け止められていると感じた」

4月10日に「サマーウォーズ」上映会開催へ！

文化庁メディア芸術祭賞のアニメ部門大賞に輝いた細田守監督のヒット作
ご家族、友人お誘い合わせてご参加ください

日時：2010年4月10日（土）

13時30分上映開始（受付開始13時）

会場：日本教育会館3F 一ツ橋ホール（新年会と同じビル）

千代田区一ツ橋2-6-2（TEL 03-3230-2833）

参加費：1人につき500円（当日徴収）

同封のはがき、またはFAX、E-mailでご予約ください

▶お問い合わせ、予約先

栗山正雄（当会幹事長）

TEL & FAX: 03-3811-2639（FAXで予約時は会員名、人数を記入）

E-mail: m-kuri@mrf.biglobe.ne.jp



(C)2009 SUMMERWARS FILM PARTNERS

【映画の紹介】上田がふんだんに登場するアニメ映画。日常部分とCGを駆使した仮想世界の壮大な描き方の対比が素晴らしい。劇場でないと味わえない感動がある。

ヒロイン夏希の従弟が上田高校野球部のエースで、甲子園を目指し連日健闘。夏希に誘われて上田を訪れた健二は

仮想世界の合戦で、真田の戦法を使って勝利する。上田高校の甲子園出場は・・・。時に2010年夏の出来事であった。

監督は「時をかける少女」で好評を博した細田守氏、奥様は上田染谷丘高校の卒業生。

（上映会当日、監督のあいさつ、懇談会も検討中）

「サマーウォーズ」上映会告知 会報79号 P12より